

競争入札経過調書（総合評価落札方式(除算方式)）

件名 大阪国際空港マルチラレーション用高压ケーブル交換工事

開札年月日 令和7年7月31日（落札決定日 令和7年8月20日）

入札執行官署 大阪航空局 大阪空港事務所

落札金額 ￥21,965,900 -

落札者 三友電気工事株式会社

予定価格 ￥33,902,000 -

積算額 ￥33,902,000 - 入札書比較価格（予定価格の100/110） ￥30,820,000 -

調査基準価格 ￥31,163,000 - 調査基準価格の100/110 ￥28,330,000 -

基準評価値 324.464

低入札価格調査実施済 第1回目落札

入札参加者	評価点 (満点122点)	第1回入札			第2回入札			摘要
		入札金額	評価値	評価値 ≥ 基準評価値	入札金額	評価値	評価値 ≥ 基準評価値	
三友電気工事株式会社	103.5	19,969,000	518.303	○				落札
宏電エテック株式会社	107.5	33,800,000	318.047	-				

※ 入札金額は入札者が見積もった契約希望金額の110分の100に相当する金額である。
 ※ 予定価格（入札書比較価格）の範囲内の入札金額であり、評価値の最も高い者を落札者とする（なお、その範囲に満たない入札金額の場合は、各点数を表示しない。）
 ※ 評価値は、評価点を各回入札の入札金額（億単位換算）で除して算出する（小数点以下第3位まで表示）。
 ※ 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の10%に相当する額を加算した金額（1円未満の端数は切り捨て。）をもって落札金額とする。
 ※ 本件は、予算決算及び会計令86条第1項の規定に基づく調査を実施し、令和7年8月20日に落札者を決定した。

総合評価落札方式評価点内訳（施工能力評価Ⅰ型）

件名：大阪国際空港マルチラレーション用高圧ケーブル交換工事

入札参加者	標準点	加算点					施工体制評価点			技術評価点
		技術提案	企業の施工能力	配置予定技術者の能力	賃上げ実施の表明	加算点の合計	品質確保の実効性	施工体制確保の确实性	評価点の合計	
三友電気工事株式会社	100	—	0.5	3.0	0.0	3.5	—	—	—	103.5
宏電エテック株式会社	100	—	6.5	1.0	0.0	7.5	—	—	—	107.5

低入札価格調査の実施概要（建設工事）

件 名：大阪国際空港マルチラレーション用高圧ケーブル交換工事

発注機関名：大阪航空局 大阪空港事務所

調査対象業者：三友電気工事株式会社

項 目	内 容
(1) その価格により入札した理由	<p>直接工事費について、材料は長年取引のある業者から資材調達することにより安価に資材を調達することができることを確認した。</p> <p>労務費については、令和3年度の空港内の同種工事の実績から、その経験を生かした効率的な作業が可能であること、今年度の手持ち工事が少なく自社社員による施工で大半を賄えることから下請けに係る経費の大幅な削減が見込めることを確認し、安全対策の費用やその他必要な経費は計上されていることを確認した。</p>
(2) 契約対象工事付近における手持工事の状況	<p>ヒアリングにて配置を予定している主任技術者の手持ち工事の状況を確認したところ、従事している手持ちはないことを確認できた。</p>
(3) 契約対象工事に関連する手持工事の状況	<p>ヒアリングにて配置を予定している主任技術者の手持ち工事の状況を確認したところ、従事している手持ちはないことを確認できた。</p>
(4) 契約対象工事箇所と入札者の事業所、倉庫等との地理的条件	<p>当該工事場所である大阪国際空港は調査対象者の本社が約26kmに位置するため、材料は調査対象者の本社からの資機材運搬が可能であり経費の節減が可能で、緊急時の対応及び安全管理に優位性があることを確認できた。</p>
(5) 手持資材の状況	<p>手持資材はなく、今回工事において調達することとしている。</p>
(6) 資材購入先及び購入先と入札者との関係	<p>長年にわたり取引がある業者から資材を調達することにより、安価で購入することが可能であることを資材購入先の見積書により確認した。</p>
(7) 手持機械数の状況	<p>ヒアリングにて、当該工事で使用する機材について、車両は自社のものを使用、その他はリースにて調達すること。また、共通仮設費に計上してあることを確認できた。</p>

(8) 労務者の具体的供給見通し	<p>自社の者は作業員名簿で配置予定者を確認した、雇用関係は健康保険証の写し、施工等に必要な資格は資格者証等にて確認したほか、現場の施工は自社作業員と一部下請業者が行うこととしており、各工種別に労務者を適切に配置する予定であることを確認できた。</p>	
(9) 過去に施工した公共工事名及び発注者	<p>過去に施工した公共工事を確認したところ、提出があった資料において、電気設備工事として、公共工事10件の施工実績があった。</p> <p>提出があった資料を基に工事成績評定についてヒアリングしたところ、工事成績評定の通知があったものはなかった。</p> <p>また、ヒアリングにて、過去に調査基準価格を下回る価格で受注した工事は設備改修工事で1件あるが特段問題がなかったことを確認した。</p>	
(10) 経営内容	<p>調査対象者の経営内容は、直近の財務諸表等の報告書から、健全な経営が行われていると判断する。</p>	
(11) (1)から(10)までの事情聴取した結果についての調査検討	<p>当局積算と比較して入札価格で乖離が大きい直接工事費については、長年、取引関係のある業者から資材を調達するため安価に確保できること、労務費については、同種の工事实績が過去に10件あり、その経験を生かした効率的な作業が可能であることや、現在手持ち工事がなく自社社員で大半の作業を賄えることから下請け経費の低減が可能であることを確認できた。また、諸経費については、必要な経費は計上されていることを確認できた。</p> <p>当局の設計図書に基づいた適正な数量が計上されており、施工方法についても適正かつ安全性に問題がないことを確認できたことから、入札した価格で本工事の内容に適合した履行がされると判断した。</p>	
(12) (9)の公共工事の成績状況	<p>過去に施工した公共工事は適切に行われており、工事の品質については問題はないと判断する。</p>	
(13) 経営状況	<p>問題なし。</p>	
(14) 信用状況	法令違反の有無	無
	賃金不払いの状況	無
	下請代金の支払遅延状況等	無
(15) その他の必要な事項	無	